

社会福祉法人の経営指標

【施設指標】

	指 標	算 式	指標の説明
① 福祉サービスの質	利用者一人当たりサービス活動費用	サービス活動費用計 ÷ 平均利用者数 × (千円)	<p>【利用者一人当たりにより要したサービス活動費用】</p> <p>福祉サービスの質を確保するためには、必要な物品や外部サービスが利用されるとともに、その利用が効率的であることが求められる。</p> <p>本指標は、適切な福祉サービスを提供する上で必要な資源配分がなされているか、それに見合う費用が発生しているか、費用が過大となって効率性に課題がないかを判断する際の基本となる指標である。利用者の支払うサービス対価と対比することも有用である。</p>
	利用者一人当たり人件費	人件費 ÷ 平均利用者数 × (千円)	<p>【利用者一人当たりにより要した人件費】</p> <p>適切なサービスを提供する上では、利用者のニーズに見合った適切な人員配置及び給与水準が必要である。</p> <p>本指標は、利用者一人へのサービス提供に、どの程度の人的資源が充てられているかを人的コストの観点から示す指標である。</p> <p>本指標の値が著しく小さい場合、福祉サービスに必要な人員に不足が生じている、又は労働条件に課題が生じている可能性がある。一方、著しく値が大きい場合は、作業の効率性や職員構成に課題が生じている可能性がある。</p> <p>本指標は、「職員一人当たり人件費」及び「利用者一人当たり職員数」に分解することができ、労働条件に関しては「職員一人当たり人件費」を、人員配置の過不足に関しては「利用者一人当たり職員数」を分析することが有用である。</p>
② 施設整備	定員一人当たり設備資産取得価額	設備資産取得価額合計 ÷ 定員数 × (千円)	<p>【定員一人当たりの設備資産の取得価額】</p> <p>設備投資の状況は、福祉サービスの質と経営状態にそれぞれ影響する。</p> <p>例えば、高齢者・身体障害者支援事業や医療事業において、最新の機器や福祉車両等の導入は、サービス内容の充実に貢献し得る。また、入所施設の建築仕様（日照確保、建材、バリアフリー化、耐震化等）や「定員一人当たり床面積」は、利用の安全性や快適性に影響を与える。</p> <p>一方で、過剰な設備投資は、法人の経営状態を長期的に圧迫することとなる。</p> <p>本指標の値が著しく小さい場合は、サービスに必要な設備等が不足している可能性がある。一方、値が著しく大きい場合は、過剰な設備投資がなされている可能性がある。</p>
	固定資産老朽化率	減価償却累計額 ÷ 有形固定資産(土地を除く)取得価額 × 100 (%)	<p>【有形固定資産(土地を除く)の取得価額に対する減価償却累計額の割合】</p> <p>施設整備の老朽化状況を示す指標である。</p> <p>建物等の有形固定資産は、耐用年数に応じて減価償却が実施され、施設建設時や設備取得時から年月が経過すればするほど、本指標の値は高くなる。特別養護老人ホーム等の多額の設備投資が必要なサービスを展開している社会福祉法人において、特に重要性の高い指標である。</p> <p>本指標の値が高い場合、建物等の設備の老朽化が進み、設備更新の必要性が高まっている可能性がある。なお、建物については、建築完了検査終了日（検査済証日付）を確認することで、実際の建築経過年数を把握することができる。</p>

	指 標	算 式	指標の説明
③ 収益性	利用者一人当たりサービス活動収益	サービス活動収益計 ÷ 平均利用者数 × (千円)	<p>【利用者一人当たりのサービス活動収益】 本指標は、利用者一人当たりの収益規模を示す指標である。前述の「利用者一人当たりサービス活動費用」や「利用者一人当たり人件費」と比較することで、利用者一人当たりのサービス活動収益とサービス活動費用を対比して理解することができる。 事業を安定的に運営していくためには、一定の収益を継続的に確保することが必要である。</p>
③ 利用度	施設稼働率(利用率)	平均利用者数 ÷ 定員数 × (%)	<p>【各施設における定員数に対する実際の利用度合い】 施設ごとに設定されている定員数に対し、どの程度のサービス利用があったのかを示す指標である。施設の稼働率が高いことは、その施設が有効に活用されていることを示す。 一般に、本指標の値が高ければ経営は安定するものと考えられることから、収益性の前提指標として重要である。なお、本指標の値は100%に近いことが望ましい。</p>